

令和 5 年度 県立太田第一高等学校 [全日制] 自己評価表

目指す学校像	グローバルな課題の解決に挑む力、持続可能な社会づくりに貢献できる力を育む学校				
	三つの方針	具 体 的 目 標			
「三つの方針」(スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(1)自ら課題を発見し、協働しながら創造的に解決できる力の育成 (2)主体的に学び続ける資質・能力の育成 (3)多様性を受容し、グローバルな視野で思考・判断・表現する力の育成			
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(1)探究を軸とした創造的な学びの環境を整備 (2)主体的に社会参画できる環境の整備 (3)多様な学びが選択できる教育課程の編成			
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	(1)挑戦する心と柔軟性を持つ生徒 (2)主体的に学びに向かう意欲を持つ生徒			
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標		達成状況
・令和4年度国公立大学合格者は37名、うち難関大学合格者は1名だった。今年度も教科内研修会などを通して授業改善をはかり、「主体的・対話的で深い学び」を実践し、生徒の進路目標実現に向け、努力しなければならない。 ・昨年度は探究活動も活発に行われ、各種コンテストへの参加、中高合同探究発表会等を開催した。今後は地域や外部機関と連携した探究活動の推進が課題である。 ・青龍祭や中学生向け学校説明会など生徒会を中心とした行事が実施された。生徒の参画意欲を向上させ、主体的に行事に参加する生徒の裾野を広げることが課題である。 ・昨年度1年間で1ヶ月あたりの超過勤務時間45時間以上はのべ78人であった。校務分掌業務の精選、教職員の意識改革が課題である。		「主体的・対話的で深い学び」の授業実践	①国公立大学合格者数70人うち難関大学合格者数4人 ②生徒による授業評価アンケートの授業満足度の肯定的回答80%以上		B
		探究を軸とした学びの推進	③学校推薦型選抜、総合型選抜での国公立大学合格者数10人 ④ドリームパス等へのコンテストに5組以上参加 ⑤全国規模のイノベーションコンテストに1組以上が応募		A
		シティズンシップ教育の充実	⑥生徒主体に行事が運営できたと感じた生徒の割合70%以上 ⑦「総合的な探究の時間」において、地域の課題解決の探究に取り組んだ探究チームの数30チーム以上		A
		教職員の在校時間の顕在化と業務改善	⑧完全退勤時間、定時退勤日を設定し、超過勤務時間45時間を超える教諭を縮減する。 ⑨校務分掌の業務の明確化と精選		B
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導	1 「主体的・対話的で深い学び」の授業実践	(1)授業の目標や課題を生徒に明示し、主体的・対話的に学ぶ態度を育成する		B	・各項目とも、「生徒による授業評価アンケート」において平均値では85%以上の満足度を示すが、個々の教員により数値にかなりばらつきがある。各項目について、研修等を通して教員一人一人にさらに浸透を図る必要がある。
		(2)生徒が授業でICTや資料等を効果的に活用する場面を設け、深い学びにつなげる		B	
	2 探究を軸にした学びの推進	(1)生徒が思考・判断・表現しながら、設定された課題を解決する機会を設ける		B	
		(2)生徒一人一人の学習状況を把握し、適切に助言する		B	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教	国語	1 主体的に読み、それをもとに表現する力の育成	(1)小テスト等を利用して基礎的な言語事項や文法・句法の理解度を把握し、習熟度に沿った対応を心がける	A	B	・評価と指導の一体化の観点からの観点別評価についてのさらなる研究・研修 ・年間指導計画の充実と系統的指導の確立
			(2)ICT を活用した授業展開をはかりながら、学習意欲を喚起し、対話的で分かりやすい授業の実践に努め、学習内容の定着に努める	A		
		2 家庭学習の習慣化	(1)探究的な視点を取り入れた授業実践を、年間を通して展開し、授業改善を推進する	B		
			(2)自己管理能力を高めるため家庭学習教材等を準備するなどし、家庭学習の習慣をつけさせる	B		
		3 読解力・表現力向上を目指した授業の改善	(1)全員が授業公開し、新学習指導要領を踏まえた指導力の向上、主体的・対話的で深い学びの観点から、ICT も適宜活用した授業内容・方法等について研究と修養をする	B		
			(2)「評価と指導の一体化」の視点で1 年次より順次、年間指導計画を作成、実施する	B		
			(3)各種研修会に積極的に参加し、教科会で発表するとともに自己研鑽に努める	B		
	地歴・公民	1 進路実現のために必要な基礎学力の向上、思考力・判断力の育成	(1)単元ごとに学習した知識とともに、思考力・判断力・表現力を問う小テストを実施する	C	B	・小テストを実施できた科目と実施できなかった科目があったものの、実施しなかった授業ではグループワークや資料の活用を積極的に実施した ・デジタル資料集の積極的活用
		2 日本と世界の歴史や地理に関する理解を深め、国際化にも対応できる授業実践	(1)視聴覚教材やインターネットを有効活用し、日本と世界の歴史や地理について多面的・多角的にとらえさせる	B		
		3 政治や社会の諸課題について問題意識を持ち、自ら課題解決に向かう公民としての資質の育成	(1)新聞記事やTVニュースの内容等を通し、社会の諸課題についての関心を高め、課題解決に向けた話し合い活動等を行う	B		
科	数学	1 基礎学力の向上と生徒の主体的な学びの支援	(1)小テスト等を利用して生徒の理解度を把握し、習得が不十分な生徒が積極的に学習に取り組めるように動機付けを含めた学習支援をする	B	B	・教員間の授業公開と意見交換する機会の増 ・少人数指導の効果的な方法の検討
			(2)少人数指導によるきめ細かな指導を行い、その成果と課題を明確し、次年度への改善策を検討する	C		
			(3)より深く学びたい生徒に対して学習内容を深化できるように支援する	B		
			(4)タブレットや電子黒板などICT機器を活用して効果的な授業を展開する	B		
		2 家庭学習習慣の定着	(1)課題のノートやワークブックを定期的に点検し、家庭学習の習慣を付ける	A		
		3 数学がわかる喜びを実感する授業への改善	(1)担当者全員がお互いに授業を公開して見学し合い、授業内容・指導方法等について教科内で研究協議する	C		
	理科	1 確かな学力の定着	(1)学習意欲を喚起するような対話的な授業の実践に努め、生徒一人一人に寄り添う支援を行う	B	B	・生徒間で対話的に進める場面の導入。 ・実験・観察により生徒の意欲を引き出し、主体的な学習へ導く ・小テストやフィードバックにより継続的な学習習慣の確立を支援 ・深い学びへつなげるためにインターネット利用以外の活用もさらに検討
			(2)実験・観察などを通して自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、主体的に学ぶ態度を育成する	B		
		2 学習習慣の確立	(1)生徒の実態に応じた課題を設定し、継続的な学習の習慣づけを支援する	B		
		3 深い学びを実現する工夫	(1)外部の人的・物的資源・インターネット利用等を通して主体的に探究する機会を設け、深い学びへつなげる	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教	保健体育	1 運動技能の向上と、主体的・対話的で深い学びの実現、更なる探究心の育成	(1) 基本的な生活習慣を身につけ、体力の向上ならびに、各種の運動技能を高めさせる	A	A	・観点別評価の方法の研究 ・I C T 機器の有効な活用方法を研究し、授業改善につなげる ・今の時代に合った種目の見直し
			(2) 各種運動の特性や魅力に触れ、自他の健康の保持増進や回復を目指す	A		
		2 保健の知識の定着と、日常生活での活用	(1) 健康・安全について理解させ、生涯を通して健康を管理・改善できるようにする	A		
			(2) 自ら課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ態度を身につける	B		
	芸術	1 表現力の向上	(1) 個別指導を丹念に行い、表現力の基礎を向上させる	A	B	・主体的、対話的な授業実践のための授業改善 ・生徒の多様性に対応した課題の工夫
			(2) 生徒の意図に基づいた表現活動を工夫させる	A		
		2 鑑賞能力の深化	(1) お互いの作品・演奏等を鑑賞し、根拠をもって批評する言語活動を工夫する	B		
			(2) 校外の展覧会・演奏会等の鑑賞を促し、幅広い感性を養う	B		
		3 主体的・対話的な授業改善	(1) 生徒が興味を持つ題材を設定し、主体的な芸術活動ができるようにする	B		
			(2) 他者との意見交換を取り入れ、思考力・判断力を深める	B		
科	英語	1 基礎学力の定着、実践力の向上、進路希望の実現	(1) 到達目標を意識した指導を行い、内容の定着および応用力の育成を図り、評価を行う	B	B	・観点別評価への共通理解を深める ・観点別評価の研究と実践をさらに進める
			(2) 少人数授業、習熟度別によるきめ細かな指導を行い、その成果と課題をふまえ、指導方法の改善策を講じる	B		
		2 探究的な学びを通して主体的に社会参画する態度を涵養	(1) 学力向上につながる小テストや課題等を工夫し、自主的に学習に取り組む学習習慣と態度を身に付ける	B		
			(2) 各種コンテストや English Camp、英語研修に積極的に参加し、異文化理解を深め、深い学びと実践力を高める	B		
		3 主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の推進	(1) A L T とのティームティーチング授業を効果的に展開し、生徒の能動的な活動を促す場面の設定を行う	A		
			(2) 教材、指導法について研究を深め、「読む、書く、話す、聞く」の4技能5領域をバランスよく育成する ※ I C T 機器の活用、ディベート的要素を取り入れた言語活動、学習クラウドサービスの活用	B		
			(3) 各種研修会への積極的参加、相互授業参観を実施など、指導力改善に向けた自己研鑽に努める	B		
			(4) 表現力を高めるパフォーマンステストを効果的にを行い、観点別評価の研究を深める	B		
			(5) 英語外部検定試験を含めた大学の新入試制度への対応を深める ※ 実用英語検定試験準会場実施、G T E C 1・2 年次生悉皆受験	A		
	家庭	1 基礎的・基本的な知識や技術の定着	(1) 授業の目標を明示し、一人一人の学習状況に応じた指導をする。	B	B	・実習以外にも、グループ活動を活性化させる ・ホームプロジェクトの事前指導を充実させる ・ポートフォリオを作成し、学習目標や評価について生徒によりわかりやすく伝える
			(2) 小テストや課題等を工夫し、適切に実施する。	B		
		2 課題解決能力および実践的な態度の育成	(1) ホームプロジェクト等において、身近な生活の中に課題を見つけ、主体的に解決する方法を考え、実践する。	B		
			(2) 小テストや課題等を工夫し、適切に実施する。	C		
		3 「主体的・対話的で深い学び」の授業実践	(1) 課題に対する自分の意見を文章等で表現させたり、他者と意見交換をしたりすることで思考力・判断力・表現力を向上させる。	B		
			(2) ICT 機器等を活用し、学習への興味・関心を高める。	B		
教科	情報	1 情報がわかる喜びを実感する授業への改善に努める	(1) 共通テストに向け、授業内容、方法等を研究し、生徒の情報リテラシーの定着を図る。	B	B	・専用ソフトを有効活用しながらプログラミング力、情報活用能力の育成につとめた
			(2) 各研修会に積極的に参加し、自己研鑽に努める。	B		

評価項目	具体的項目	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教 務	1 特色ある教育課程の運用と学習評価の研究	(1) 観点別学習評価方法の工夫と研究を進める	B	B	・ 観点別学習状況の評価の研究、職員研修会開催 ・ 行事の精選と業務改善の推進
		(2) 中高一貫校の強みや学校設定科目を生かした6年間の教育課程を研究する	C		
		(3) ICTを有効活用した授業実践に努める	B		
	2 内規の見直しの実施	(1) 校務分掌の改編と新学習指導要領への移行、社会変化に応じて、内規を整備する	A		
	3 円滑な学校運営と業務改善	(1) 各分掌・各年次との連携を密にし、能率的な年間行事計画を研究す	B		
		(2) 仕事の効率化や業務縮減のためにICT活用を拡大する	A		
渉外広報	1 教育環境の充実	(1) 高教研への登録や、PTA会員名簿の作成に努める	B	B	・ 奨学金の手続きの年次や保護者への周知徹底 ・ ICT部と連携した広報活動
		(2) 奨学金について、保護者・生徒に周知し、円滑な手続きに努める	A		
	2 PTA活動の充実	(1) PTA各行事（総会・年次PTA・講演会・支部懇談会）等の出席率向上を図る	B		
		(2) PTA会報を発行し、学校と保護者との交流を深める	A		
		(3) PTA研修旅行や、生徒指導関連行事を実施し、学校と保護者との親睦を深める	A		
	3 広報活動の充実	(1) ICT部と連携し、学校HP・インターネットを活用した広報活動に努める。	C		
		(2) 学校案内（スクールパンフレット）、ポスター類の作成と配布に努める	B		
		(3) 中学生対象学校説明会を企画立案し、円滑な運営に努める	B		
探究推進	1 探究活動の充実を促進と外部への発信	(1) 6年間の探究的な学びのCAN-D0リストを作成し、発達段階に応じた指導に活かす	C	B	・ 6年間の探究的な学びのCAN-D0リストを作成するだけでなく全職員で共有・意見交換する機会を作る ・ 推進協議会、委員会など探究の組織化が進んできたので、他の校務分掌との連携や、中高間の連携もさらに進める ・ 新規導入したARやプログラミング講座などの効果もあり、コンテストの入賞が増え、学校のPRにもつながった ・ 探究活動を推薦・総合型選抜に活かした生徒が増加した
		(2) 中高が連携して行う探究活動や公開中高合同発表会を効果的に企画・実施する	B		
		(3) 各種コンテストへの参加、探究活動の校内・校外への情報発信を促進する	A		
	2 主体的な学びの体制の充実	(1) 公開授業や研修を企画して教員の研鑽を深め、主体的・対話的で深い学びを目指す	B		
		(2) 青龍アラカルト課外や生徒の探究委員会を活性化させ、生徒の主体的な参加を促す	B		
		(3) 地域連携やソフトバンクなどとの企業連携を促進し、多様な学びのニーズに対応する	B		
		(4) 探究推進協議会の協力・助言・評価を取り入れて、探究活動を継続的に改善する	B		
キャリア・サポート	【進学目標】 1 適切な進路指導の充実を図り、国公立大学合格者数70人・難関大学合格者数4人 2 総合型選抜及び学校推薦型選抜の対策を進め、学校推薦型選抜、総合型選抜での国公立大学合格者数10人	(1) 学校独自編集の進路資料を6月までに発刊し全生徒へ配布する	A	A	・ 取り組みを強化したことにより、年内入試の受験者、合格者は増加したが、総合型選抜、学校推薦型選抜の準備をもう少し前倒しして早い時期から取り組ませるような指導をしたい ・ 外部連携による公務員講座は3名の現役合格者を出すことができ、成果をあげた。来年度も継続したい ・ 就職指導に関しては、きめ細やかな個別対応の指導により、就職率100%を達成した。来年度もさらにきめ細やかな個別最適化の指導に係で継続したい
		(2) 「すべての教室へ新聞を」運動による教室への新聞の配置を毎日行う	A		
		(3) 学校独自、または外部機関と連携による各種インターンシップを企画・実施する	A		
		(4) 3年次対象の小論文講座、面接指導を実施する	A		
		(5) 年次ごとの企画により模擬試験・大学見学体験会を実施する	A		
		(6) 高校1・2年次向けの卒業生進路懇談会を実施する	B		
		(7) 独自企画による全校生徒向けのキャリア講演会を実施する	A		
		(8) 進学型課外を必要に応じて年次ごとに計画し実施する	B		
		(9) キャリア教育プログラムを外部機関と連携して行う	A		
	【就職目標】 1 生徒の能力・適性に応じた就職指導の徹底を図ることで、就職率100%	(1) 適切な就職斡旋のため、進路相談室での個別面談を実施する	A		
		(2) 事業所からの情報収集と、ネット求人票などによる適切な就職情報を生徒へ提示する	A		
		(3) 3年次を中心とした放課後公務員講座を実施する	A		
		(4) ハローワークとの連携と、各種報告や会議を通じた情報収集を行う	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
特別活動	1 生き生きとした高校生活の確立	(1) HR や学校行事を通して生徒の主体的行動を支援する	B	B	・生徒の主体性をいかした活動を支援する ・ホームルーム年間計画を整理し、各 HR の活動時間を確保する ・中学⇄高校の各種活動の連携を推進する
	2 生徒会活動の活性化	(1) 生徒が主体性を発揮し、地域との連携を図りながら、生徒会を中心に学校行事の企画運営を行う	A		
	3 ホームルーム活動の活性化と内容の充実	(1) 学校生活の拠点としての居場所づくりと仲間づくりを HR 年間計画に基づいて系統的に支援する	B		
	4 他分掌と連携したキャリア形成の支援	(1) 自らの学習や学校生活を振り返り、将来を見通しながら主体的な活動が充実して行えるように、キャリアサポート部や ICT 推進部、探究推進部と連携し、ICT を効果的に活用して支援する	C		
	5 部活動の充実と発展	(1) 部活動の活性化を促進するとともに、生徒の主体性に基づいた運営を支援する	B		
ウェルネス	1 基本的生活習慣の確立	(1) 貴重品の自己管理と教室の施錠・貴重品袋の活用を徹底する	B	B	・交通安全指導の継続的实施 ・全職員の共通理解のもと、服装等身だしなみの継続的指導 ・生徒の心身の健康問題へ適切かつ迅速に対応できる体制の強化
		(2) 服装・頭髪の指導については、全職員の共通理解のもと指導方針に一貫性を持たせ、職員の一致協力による指導を行う	C		
		(3) 携帯電話やスマートフォンのマナーを守らせ適切な使用を徹底させる	B		
		(4) 情報モラルの向上に努め、トラブルに巻き込まれないように注意喚起する	B		
	2 交通安全指導の強化	(1) 必要に応じ PTA 生徒指導委員の参加・指導を依頼する	B		
		(2) 共通理解を図りながら、全職員で立哨指導を行う	A		
		(3) 保険加入の確認も含め、4 月当初に自転車・バイクの点検を行う	A		
	3 生徒の自発的活動の促進	(1) 生活委員会を毎月開催し、校内風紀や環境の向上に生徒が主体的に関わり行動するよう促す	B		
		(2) 交通講話や HR 活動等とおして、生徒一人一人の自覚を促し、交通・公共マナーの向上に主体的に取り組むよう支援する	B		
	4 教育相談の充実	(1) 担任、年次、スクールカウンセラー、保護者との連携を図りながら、生徒一人一人に寄り添った教育相談を行い、早期解決に導く	B		
		(2) 職員、保護者等に対する支援、相談、情報提供を行う	B		
	5 生徒・教職員の心身の健康増進	(1) 生徒が主体的に感染防止対策を講じることが出来る能力を育てる	B		
		(2) 保健便り等を活用し、保健室の効果的な運営に努める	B		
		(3) 性教育講演会等各種健康教育を実施し、健全な健康観を作る	A		
	6 環境の整備・美化	(1) 清掃用具の管理に努め、全職員・全生徒による清掃を徹底し、衛生環境の改善を図る	A		
		(2) 生徒の健康安全を重視し、学習環境の安全点検を行う	A		
	7 防災・安全管理の徹底	(1) 災害の怖さや、防災の大切さを啓発する	B		
		(2) 綿密な計画を立て生徒が安全な行動を取れるように指導する	B		
		(2) 避難訓練の方法を工夫し適切に実施する	B		
I C T 推進	1 校内 LAN の構築とその利用、セキュリティーの確保	(1) 授業・HR 単位でのタブレット端末や電子黒板等の利用の支援を行う	B		・来年度は教務部と探究部に統合となるため、業務の引継ぎが問題なく行われるようにしたい ・試験ごとの入力締切を明確にする（年間予定に入れる）

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題	
	2 支援システムのスムーズな運用と、適切な成績処理	(1)校務支援システムをスムーズに運用し、各種帳票の作成等の支援を行う	A			
		(2)一斉試験等の処理を適切に行い、処理内容の把握とその研究・開発に努める	B			
	3 ホームページの更新及び内容の充実と積極的な外部への情報発信	(1)各部署との連絡を取り定期的なホームページの更新内容の充実に努める	B			
	4 主体的・対話的で深い学びを実現するためのICT活用支援	(1)探求推進部等と連携しプログラミングやeスポーツ等の校外コンテスト生徒の参加を促す	A	B		
		(2)本校職員対象の校内研修の企画・運営に当たり、コンピュータ利用に関する知識・技術の支援を行う	C			
	5 図書館資料の充実	(1)図書の収集方針に基づき、定期的な図書選定を実施する	B			
		(2)蔵書整理の基準に則り、生徒の利用を促進する資料の整理・分類を継続する	B			
		(3)中学生むけや探究の時間の利用に役立つ選書の工夫をする	A			
	6 情報センターとしての図書館の利用促進	(1)書架の配架の工夫等により、様々な利用形態に対応できる図書館の環境整備に努める	B			
		(2)各教科・各分掌との連携により、生徒の現状に沿った図書の利用促進の工夫に努める	B			
7 図書委員会の活動の充実	(1)図書委員の主体的な活動を促進する	A				
	(2)生徒による「図書館便り」「図書館報」等の、図書館広報活動を向上させる	A				
1 年次	1 基本的生活習慣の確立	(1)生徒面談、教育相談、立哨指導、年次集会、校内巡視等による適切な生徒指導に努める	B	B	・進路意識の向上と学力の向上 ・個人の学習時間管理の徹底 ・課外および外部講座の積極的利用の呼びかけ ・模試の活用 ・生徒の実情に合わせた授業展開 ・幅広い学力層への対応 ・学習の習慣化	
		(2)学校生活全体をとおした規範意識の醸成および健康維持・増進を図る	B			
		(3)生活の中での時間遵守と挨拶の励行を呼びかける	B			
	2 主体的な学習態度の育成および基礎学力の向上	(1)学習時間調査等を活用し、「予習→授業→復習」の学習サイクルの早期定着を図る	C			
		(2)「総合的な探究の時間」を含めた学習活動全般をとおし、自ら課題発見し、解決する資質能力を育成する	B			
		(3)課外や外部講座等を利用し、発展的学習に主体的に取り組む姿勢の育成を図る	B			
	3 進路目標の設定	(1)学問や職業の研究をとおし、進路選択について考えさせる	B			
		(2)進路行事をとおして進路意識の啓発を図り、生徒面談で具体的目標を検討させる	B			
		(3)進路目標の実現にむけて、授業や模試等をとおした学力の育成を図る	B			
	4 高校生活の充実	(1)部活動や学校行事への積極的な参加を促し、集団への寄与や一体感を体験させる	B			
2 年次	1 基本的生活習慣の確立 (1)学校生活・社会生活における規律の遵守 (2)時間の遵守と挨拶の励行 (3)健康の管理と維持	(1)生徒面談、教育相談、立哨指導、学年集会、校内巡視等をとおして適切な指導に努める	B	B	・進路実現に向けた、学習習慣のさらなる定着と学力向上	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
	2 主体的・協力的に課題に取り組む態度の育成と基礎学力のさらなる向上 (1) 家庭学習の習慣化と進路を見据えた学習の徹底 (2) 課題探究を通じた自己分析と具体的進路目標の設定 (3) 課外等への積極的参加と学力の増進	(2) 高校生らしい身だしなみを身に付けさせるとともに、規範意識の醸成と健康の維持・増進を図る	C	B	
		(3) 普段の生活の中で、時間の遵守と挨拶の励行に努める。また教室内の整理整頓に努め、清掃活動を通して、自ら進んで生活環境を整えるよう指導する	B		
		(1) 自己管理能力を高めて家庭学習を定着させ、授業や課外等において学習意欲が高まるような働きかけをおこなう（Classi 等を利用する）	B		
		(2) 探究活動や諸行事への参加をととして、自己の在り方・生き方を考えながら、協力して課題を発見し解決していくための資質・能力の育成を図る	B		
		(3) 模試、課外、集中ゼミを実施し、それぞれの現状把握に基づいて、自学の習慣化と学力の向上を図る	C		
	3 進路目標を明確にする (1) 学問分野をふまえた進路目標の明確化 (2) 自己理解の深化をととした進路戦略を具体化	(1) 個別面談等をととして学習課題や進路希望を把握し、諸調査を活用して個に応じた学習・進路指導を推進する	B		
		(2) 進路ガイダンス・進路講演会・大学見学会・インターンシップその他の活動をととして、学問分野の情報を集めさせる	B		
		(3) 模試等で自己の学力を把握させ、次年度の科目選択を具体的に考えさせる	C		
	4 主体的な高校生活の態度育成 (1) 特別活動及び探究学習活動への積極的な参加 (2) 地域社会への貢献	(1) 部活動及び学校行事への積極的な参加を促し、集団への寄与や、一体感を体験させ他者と共感する態度を養う	B		
3 年次	1 基本的生活習慣の確立 (1) 学校生活・社会生活における規律の遵守 (2) 時間の遵守と健康管理の維持	(1) ウェルネス部と連携し、身だしなみや礼儀等について、HRや集会等を通して指導を行い、規範意識を高める。また、交通安全指導を徹底して、事故防止に努める。	B	B	・効果的・継続可能な課外の実施について検討する必要がある ・服装指導と頭髮指導のバランスや、交通指導のあり方について検討する必要がある ・遅刻者への指導を定期的に行う
		(2) 規則正しい生活を心がけ、心身の健康管理に努め、欠席・遅刻・早退を減らし、学習に集中する生活習慣を確立する	C		
	2 主体的・自主的な学習態度の育成と、生徒一人ひとりの進路希望の実現 (1) 主体的学習態度の確立と、進路を見据えた学習指導の徹底 (2) 自己分析と具体的進路目標の設定 (3) 平常課外や土曜課外などへの積極的参加と学力の増進	(1) 本校生徒の現状を踏まえて、生徒自身が早期に主体的に進路を選択し、目標に向かって努力する体制をつくる	A		

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
		(2) キャリアサポート部や探究推進部と連携し、生徒・保護者に進路情報を提供する。個別面談を密に行い、生徒それぞれの課題の解決を自ら考えさせるよう適切に助言し、進路実現を支援する	B		
		(3) 大学入学共通テストをはじめとする入試制度についてキャリアサポート部と連携して研修を深め、生徒の進路実現に寄与する	A		
		(4) 日々の授業だけでなく、課外・Classi・スタディサブリ動画講座への積極的・主体的な参加を通して、学力の増進を図る。また、生徒の希望と適性に合った志望校への進路実現を支援する	B		
		(5) 年次や教科の枠を越えて、教員がそれぞれの専門性や特性を生かした進路指導を推進する	B		
	3 高校生活の充実 (1) 特別活動への積極的な参加 (2) 地域社会への貢献	(1) 最高年次生としての責任を自覚させ、部活動や生徒会等の課外活動への積極的な参加を通して、相手を尊重し思いやる気持ちや連携意識の高揚に努める	B		
		(2) 広い視野に立ち、地域社会から愛され、地域社会に貢献する人材を育成する	B		

※ 評価規準 A：大変よくできた（達成度 100～80%）

B：よくできた（達成度 80～60%）

C：普通（達成度 60～40%）

D：あまりできなかった（達成度 40～20%）

E：全くできなかった（達成度 20～0%）※ 評価規準：